

胃がん検診結果通知書

氏 名		住民登録番号		- 1(2)*****	
区分	検 査 項 目 (検診日)		結 果		判定 ※ 判定区分に基づいて判定基準をそのまま記入
胃 が ん	検査名 (年 月 日) ※ 最大2種 (胃造影検査、 胃内視鏡検査)	所 見 (病変位置) ※ 所見に基づいて括弧内に 病変位置を記入			
		組 織 診 断 ※ 組織診断を行わなかった 場合は削除			
	勧 告 事 項				
	判定日	年 月 日	判定医師	免許番号	
			医師氏名	(署名)	

胃がん検診結果通知書	
<p>※ (健康保険加入者) 健康診断の結果通知書に上級の総合病院での療養給与が必要との医師の所見が記載された場合、療養給与依頼書(診療依頼書)に代えることができ、本通知書を活用して上級の総合病院で診療を受けることができます。</p> <p>※ (医療給与受給権者) 健康診断の結果、異常所見があり、診療担当医師が検診結果書に追加診療が必要だという医師所見を記載した場合は、同検診結果書をもって医療給与依頼書の代用とし、検診を行った医療給与機関にて診療を受けられます。それ以外で医療給与が必要な場合は「医療給与法施行規則」第3条の医療給与手続に従って診療を受けなければならない、選択医療給与機関適用対象者は本人が選択した医療給与機関にてまず診療を受けなければなりません。</p> <p>※ 胃がんは、大韓民国国民の発病率をもっとも高いがんで、定期的な検診による早期発見が可能であり、早期発見された場合は内視鏡治療または手術治療で完治できます。</p> <p>※ 胃がんは、40歳以上になると発症率が急激に増加しますので、特に症状がない場合も40歳以上の方は男女を問わず2年に1度は胃内視鏡検査または胃造影検査を受けることをお勧めしております。胃造影検査で異常が発見された際には、翌年度1月31日までに胃内視鏡検査で胃がんの発生有無を確認することができます。</p> <p>※ 胃がん検診結果に異常所見がなくても腹痛、胃もたれなどの症状がある場合は医師と相談する必要がある、検査で異常所見無し以外の判定を受けた場合は勧告事項に従い措置をお取りください。</p> <p>※ 胃がん算定特例者として登録された受検者は、算定特例終了日までに胃がん検診の猶予ができます。</p> <p>※ 胃がんと診断された人の中で関連する要件(健康保険料、国家がん検診受検の有無など)を満たす人は、「がん患者医療費支援事業」の対象となることができます。(詳細については、管轄の保健所にお問い合わせください。)</p> <p>あなたの胃がん検診結果を以上のように通知します。</p> <p>年 月 日</p> <p>療養機関記号 検診機関名</p>	

※ がん検診結果通知書は別添のがん検診結果記録紙に基づいて検査項目に応じてアレンジして作成